

# 東京病院ニュース

## 第42号



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院  
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1  
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168  
ダイレクト・イン・ダイヤル 042 (491) 4134  
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/tokyo/>

## 総合診療センター部長 新任の挨拶

総合診療センター部長 青木 和浩



独立行政法人国立病院機構東京病院の総合診療センター部長を拝命いたしました青木和浩と申します。4月に赴任してから3か月しか経過しておらず、このような重責を果たすことに少々不安もございますが、どのように務めるべきか日々思いを巡らせました。一つは所属診療科の循環器内科の充実に努めることと、もう一つは

院内の連携をできるだけ円滑化するように努めることではないかと自分なりに考えました。

東京病院の診療部門のセンターには呼吸器センターと喘息・アレルギーセンター、消化器センター、総合診療センターがございます。総合診療センターには総合内科、神経内科、循環器内科、整形外科、放射線科、リハビリテーション科、泌尿器科、歯科、臨床検査科を含んでいます。患者様のニーズにこたえるため、各診療科の特徴を生かし有機的に連携し、診療の効率化できるように努めます。

東京病院は呼吸器やリハビリテーションにおいて全国有数の施設といっても過言ではないと今実感しております。診療はもとより教育、研究活動も活発で、大田院長の強いリーダーシップのもと、さらにすべての診療科が良い方向に向かおうという雰囲気には満ち溢れています。武蔵野の面影の残る広い自然豊かな素晴らしい環境の中、東京病院の発展のために尽力して参りたいと存じます。そして歴史と伝統ある東京病院の一員として働けますことに、大いに喜びを感じております。またいつの日かこの職務を任せて良かったと感じていただけるように頑張っていきたいと思っております。

最後になりますがこのような素晴らしい施設にご推挙いただきました東京大学循環器内科教授小室一成先生、受け入れてくださった東京病院院長大田健先生を始めとする方々、長い間お世話になりました大阪大学循環器内科、神戸掖済会病院の方々に心より感謝申し上げます。

## 地域医療連携部長 新任の挨拶

地域医療連携部長 廣瀬 敬



平成25年7月より、相澤仁志 前地域医療連携部長の退任に伴い、地域医療連携部長を拝命致しました廣瀬 敬（ひろせ たかし）と申します。私は、呼吸器内科、特に肺癌の診断・治療を専門としております。前任の昭和大学呼吸器・アレルギー内科では、呼吸器グループのリーダーとして、臨床では呼吸器全般、研究では肺癌の臨床研究に従事し、医局の後輩を指導してまいりました。また、所属科の教育のリーダーとして、医学部や薬学部の学生教育に従事してまいりました。本年4月に国立病院機構東京病院に赴任し、この度、地域医療連携を勉強させていただく機会を得ました。

私は、受診された患者様が「受診して良かった」と思っていただけのような診療を日々心掛けてまいりました。国立東京病院は、大田院長の指導のもと、病院全体として、自分や自分の家族が受けたい医療、患者様が「受診して良かった」と思っていただけのような医療を実践していると感じております。

先生方、医療スタッフの皆様方には、北多摩北部医療圏5市を始め、埼玉県、東京都区内などの多くの医療機関からご紹介いただき大変感謝しております。国立東京病院では、昨年7月より午後2時まで初診患者様を受け付けており、さらに昨年10月より二次救急医療の受け入れを開始し、患者様や連携医を始めとする先生方のニーズにこたえられる体制が整ってきております。国立東京病院を連携医の先生方、医療スタッフの皆様方により深く知っていただけるよう、各診療科の紹介を継続していきたいと存じます。また、連携医の先生方や施設からの御要望、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

患者様が最適な医療を受けるには、急性期病院、慢性期病院、家庭医、在宅医、介護老人保健施設、介護老人福祉施設などの連携が不可欠です。先生方、看護師、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、訪問看護師などと協力し、患者様の視点に立ったきめ細やかな地域医療連携を円滑に行っていくことにより、患者様は最も良い医療を受けられると信じております。今後、患者様や地域の先生方、医療スタッフの皆様から信頼される病院を目指し、微力ながら地域医療連携に貢献できるように精進してまいりますので、ご指導、御鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

# 第8回東京病院医療連携交流会を開催致しました。

平成 25 年 5 月 28 日(火)19:30 より第 8 回東京病院医療連携交流会を行いました。10 施設の医師、看護師、事務職の方にお集まり頂き楽しく親睦を深めることができました。

当日は、新たに企画した症例相談会と診療科紹介を行いました。

症例相談会では連携医の先生から困った症例、珍しい症例、相談したい症例などを持ち寄っていただき、気軽にディスカッションをすることができました。

診療科紹介では、循環器科の青木和浩医長が新体制で始まった循環器科の紹介をしました。さらに、リハビリテーション科新藤直子医長がリハビリ病棟が亜急性期病棟から回復期病棟へとリニューアルしたことを紹介しました。



最後に、この場を借りて地域医療連携部長の交代をお知らせいたします。平成 25 年 6 月付けで相澤仁志が退任しました。これまでのご厚情、ご協力に深く感謝申し上げます。7 月からは新進気鋭の呼吸器内科廣瀬敬医長が地域医療連携部長に就任しますので今後とも宜しく願い申し上げます。

## 難治性喘息外来開設のお知らせ

東京病院の新しい特徴として、喘息領域を専門とするスタッフの充実があります。院長の大田は我が国の喘息の診療指針である「喘息管理・予防ガイドライン」の作成責任者であり、厚労省が展開する「喘息死ゼロ作戦」の責任者でもあります。そこで、東京病院では、呼吸器領域でこれまでに高い評価をいただいている結核、感染、咯血、腫瘍、間質性肺炎、COPD、睡眠時無呼吸症候群などに加えて、喘息についても貢献度を高めることを考えました。「通常の喘息治療でうまく喘息がコントロールされていない」難治性喘息の患者さんのための外来として、月曜日の午前10時から12時まで院長が診察させていただきます。休診や時間短縮などで迷惑をお掛けしないよう予約制にしております。なお、従来通り水曜日と金曜日の午前中も、予約枠に余裕がある限り診察させていただきます。なお庄司喘息・アレルギーセンター長も、専門医の輪番により難治性喘息外来を開設する予定です。開設後、追って詳細はお知らせ致します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 臨床研究部研究発表会2013

臨床研究部長 蛇澤 晶

6月11日に臨床研究部研究発表会が大会議室で開かれ、前年度までに行われた研究のうち各研究室長が選抜した演題（計6演題）が発表されました。また今回は、国際学会への参加演題も報告されました。

新規電子カルテの会議などが重なったにもかかわらず、93人の人たちが参加しました。今年は若手からベテランまで広い年齢層の研究員の発表が並び、すべて興味深いものであったため活発な質疑応答が行われましたが、特に異業種間での議論が盛んに行われ、非常に有意義な会となりました。最後に、優秀演題3題が院長賞・看護部長賞・臨床研究部長賞として表彰されました。

この発表会は、院内でどのような研究が実施されているかを職員に周知してもらうほか、院内多職種の方による集いを開くことにより、多方面からの研究を促すことも大きな目的としています。今後はさらに課題を増やしてもらい、診療面にも役立つ研究を推進したいと考えています。



和やかな雰囲気での質疑応答

## 平成25年度第1回日本DMAT隊員養成研修に参加して

田中好太郎（耳鼻咽喉科医長、日本DMAT隊員）

DMATという略語を聞いたことはおありでしょうか。Disaster Medicine Assistance Teamの略です。阪神淡路大震災以降、災害医療の重要性が高く認識されるようになりました。多くの傷病者が発生し、医療の需要が拡大する一方で、病院も被災し、災害時の医療に精通した人材による活動もないまま死亡した、「防ぎうる災害死」が大きな問題になりました。その後、災害医療の専門的な訓練を受けた医療チームとして、災害拠点病院におけるDMATの育成がすすめられました。3.11の東日本大震災直後の被災地の様子を、テレビでかたずをのんで見守られたとき、DMATと背中に書かれた防災衣装をまとい、被災地での医療支援にあたったDMATの姿を目にしたことと思います。

ところで、災害対策基本法に基づく防災基本計画は、国立病院機構に対し、医師を確保し災害派遣医療チーム（DMAT）等を編成することを求めています。特に東京病院は、災害拠点病院に指定されており、防災計画に積極的に参加する責務があります。

平成25年5月28日より同年6月1日にかけて、兵庫県災害医療センターで平成25年度第1回日本DMAT隊員養成研修が開催されました。当院より、柏崎隆司（6階西病棟副看護師長）、西田香織（4階東病棟副看護師長）、磯山賢（薬剤科薬剤師）、水野浩太郎（企画課算定病歴係長）、および田中好太郎（耳鼻咽喉科医長）が参加しました。全員が、全課程を無事に修了して帰任しました。また、全員が試験に合格し、厚生労働省によりDMAT登録者として認証されました。

DMATの設立背景や、DMATの意義、求められる技能に関する座学が全体の20%程度で、残りは実習で占められる実践的な研修でした。被災現場での初期治療の目的は、バイタルを安定化させ、根治治療を被災地内外の災害拠点病院で行うまでの時間を稼ぐこととなります。縫合のような外科特有の手技は求められません。気道、呼吸、循環、神経症状、保温、坐減症候群について、系統的に評価できて、気道確保と静脈路確保により、呼吸循環をもたせられる技術があればよく、被災現場でできるのはせいぜいそこまでであると考えます。印象的であったのは、外傷性気胸の初療が重要であることでした。呼吸器疾患の診療において高い能力を有する当院の医療者が、その実力を大いに発揮できる分野であると感じました。

本研修では、参加者全員が最後まで、高い士気を保って研修を修了できました。柏崎隊員と西田隊員は、試験において優秀成績者として発表され、当院の人材が優秀であることを実証しました。磯山隊員は、厚生労働省において6年間の実務経験があり、ロジスティシャンとして高い能力を発揮できることがわかりました。水野隊員は、研修に疲れを見せることなく最後まで明るくとりくみました。

今後、当院における災害医療分野をいかに育てていくかが、われわれ東京病院DMATの課題であると考えます。



修了式で所信表明する東京病院DMAT



消防の救助隊とDMATインストラクターによる、救助活動の模範演技



懇親会の席上、成績優秀者として壇上にあがる柏崎隊員と西田隊員(写真中央)

**診療内容 病床数560床**

- |   |                                  |   |   |
|---|----------------------------------|---|---|
| ○呼吸器センター  | ○喘息・アレルギーセンター                    | ○消化器センター  | ○総合診療センター                                     |
| ●呼吸器内科<br>●呼吸器外科<br>●リハビリテーション科<br>●放射線科<br>●緩和ケア内科 | ●アレルギー科<br>●眼科<br>●耳鼻咽喉科<br>●皮膚科 | ●消化器内科<br>●消化器外科<br>●リハビリテーション科<br>●放射線科<br>●緩和ケア内科 | ●総合内科<br>●循環器内科<br>●神経内科<br>●麻酔科<br>●臨床検査科    |
|   |                                  |   | ●整形外科<br>●リハビリテーション科<br>●泌尿器科<br>●放射線科<br>●歯科 |

**平成25年度「清瀬市健康診査」受付中です。**

〈実施期間〉 平日（月～金）及び第2・4土曜日

〈受信を希望される方は〉

当院は完全予約制となっております。ご希望の方は予約センターまでお問い合わせ下さい。

なお、受診の対象となる方にはあらかじめ清瀬市から「受診券」が郵送されますので、受診券が届いた方から予約をお願いします。

【予約センター：TEL 042-491-2181 受付時間：平日8:30～15:30】

**受付時間：初診 8:30～14:00 (消化器内科の月、金は12:00までの受付) 予約センター 042-491-2181**  
**再診 午前の診療 8:00～11:00 午後の診療 12:30～14:00 (受付時間平日8:30～15:00まで)**

**専門外来案内**

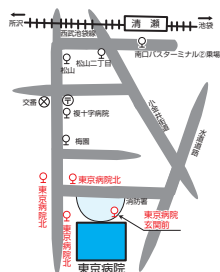
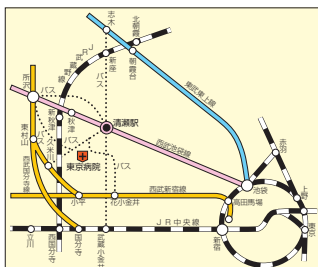
専門外来名	診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
禁煙 (予約制)	火(午前)	タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
呼吸器 関係 外来 肺がんセカンド オピニオン(予約制)	木(午後)	肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。 [1時間まで10,500円]
喀血 (予約制)	火(午後2時～)	咳をともなって気道・肺から出血する状態を喀血といいます。肺アスペルギルス症、気管支拡張症、非結核抗酸菌症、肺結核、肺癌の患者さんにおこります。ご相談ください。
間質性肺炎	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合もあります。
非結核性抗酸菌症	水(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
いびき COPD (睡眠時無呼吸症候群の検査)	月～金(午前)	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「なっている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
ものわすれ外来	水(午後)	最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)
高次脳機能外来	木(午後)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など (要神経内科外来受診)。
肝 胆 脾	金(午後)	肝臓癌、胆嚢癌、胆管癌、膵臓癌や胆石症など、肝胆脾疾患の手術のご相談、お申し込み、セカンドオピニオン等に、専門の医師が対応いたします。
地域リハビリ相談	木(午前)	連携医の先生方からかりつけの患者様で、運動・言語・嚥下機能に問題があり、リハビリテーションをご希望の方。(かかりつけ医の情報提供書が必要です。)

**医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合 (医療機関)**

外来診療の予約 : 診療依頼書をFAX送信して下さい FAX 042-491-2125 (8:30～15:30)

CT・MRI検査の申し込み: 医療連携室へお電話下さい TEL 042-491-2934 (8:30～17:15)

**交通案内**



**交通**

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。
- 西武新宿線 久米川駅北口より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車でお越しの際は正面よりお入り下さい。

(駐車場265台)  
 30分以内 無料  
 31分～4時間 100円  
 以後1時間毎 100円  
 (20時15分～7時 1時間毎300円)

**WEB検索**

東京病院

検索

